

郷土振津

いにしえ通信

第24号

平成十二年四月一日
発行振津市三島一丁目一番一号
振津市教育委員会
生涯学習部 生涯学習課

◎今月号より、本市が所蔵し

ています生活道具を紹介して
いきます。道具からいにしえ
の人々がいかに生活してきた
かが分かります。道具を通じ
て生活の知恵や工夫の一端に
ふれ、ちょっと昔の暮らしに
ついて、見ていきましょう。

道具は語る

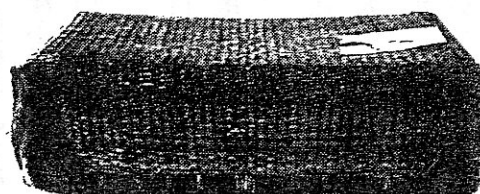
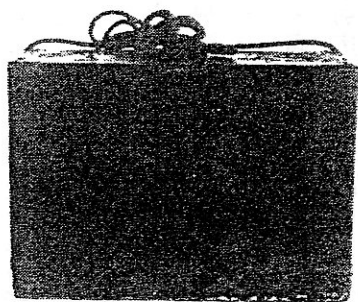
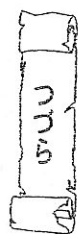
ちょっと

振津市の昔の暮らし

行李・つづらが語る生活

行李（こおり）やつづらの用
途は多種多様でした。役場や銀
行では書類入れに使っていまし
たし軍隊では弾薬や食料を入れ
て馬に運ばせていたようです。また呉服や薬の行商人は行李
に品物を入れ大風呂敷に包んで
背負って行商していました。

家庭でも筆筒（た

んす）があってもその他に
行李の二つや三つはありまし
た。季節はずれの衣服を入れ
て押し入れにしまっていました
たし、小型のものは弁当箱
や裁縫箱に使っていま
した。

収める・要

第1回

行李・つづら

行李（こおり）の歴史は古
く、しかも古い時代から今日
まで、あまり形が変わってい
ないのが特徴です。正倉院に
は奈良時代の行李が残ってお
り、現在の柳行李と同じ技法
でした。中国の場合はさらに
古く、前漢時代の墓、馬王堆
から現在のものほとんど変
わらない行李が出土していま
す。行李という名前と呼ばれる
ようになったのは新しく、江
戸時代になってからです。平
安時代から室町時代までは皮
籠（かわかご）と呼ばれてお
り、もともと皮を張った箱で
したが、柳や竹で作ったもの
も皮籠と呼んでいました。室
町時代あたりから、葛籠（つ
づら）と呼ばれるようになり
ました。行李と呼ばれるようになって
から造りは簡単になり、庶
民の収納具として普及してい
きます。

投稿欄

『私にも一言』

『慶徳寺全話』

千里丘東四丁目 宮田 一朗

月の十二日が母の命日になるので、慶徳寺さんに願って経一卷をあげてもらい、供養を続けてもう三十余年になる。

主に現住職の浄師が来訪されるが、近年大学を出られた長男さんが、ときたま代参される。

今月（三月）は息子さんだったが、法要の後茶を差し上げながら、ふるさと摂津講座で「慶徳寺と敬順師」の勉強があったことを伝えたら、「へえー、うちの寺の話なんかしてもらえたんですか？」とびっくりしておられた。

敬順師は、現住職の曾祖父に当たられること、苦心して開発作成された大算盤に係る話など、代々よく聞かされたとの事。後年になって燃やさ

ずに残っていたら、貴重な資料になったのにと、時々話題になる由である。

講座で教えられた慶徳寺を證する木仏と寺号についても聞いてみたら、金箔などは剥げ落ちていて古色蒼然となっているが、阿弥陀如来像で、同寺本堂に本尊として安置されているそうである。又摂州広根村から現慶徳寺へのゆずり状なるものも保存されているとの事で、なんだか興味がそそられる気持ちになった。寺域についてお尋ねしたら、敷地については明治初から少しも変ってなく、鐘樓の建物などに大正の名残が見られ、現住職さんの祖父のころから現様式になったのではないかと教えて下さった。

「父だったら今少し詳しく話ができると思います。遊びに来て下さい」と人なつこく最後に笑いながら誘って下さった。合掌……。



星翔高校の裏の通りに「慶徳寺」の寺領があり五十石の収穫にちなんで、その横を通っている道を「五十石道」と呼ぶようになったという話を聞き、よく通る道にそんな名前がついていたとは、大きな驚きでした。

早速、コンビニエンス・ストアの近くの道を探索に、十三・高槻線が整備され、畦の幅も広くなつてはいま

すが、以前は浪工（現星翔高校）の塀に沿つてもっと奥まで細い道が続いていたように思います。昔の道は浪工の校庭を横切るような形で摂津小学校の裏の道に続いていたのでしようか。「五十石道」は千里

丘一丁目、府道大阪高槻・京都線で亀岡街道から分かれて蔵垣内でJ.R.の踏切を渡り、井於神社、三宅小学校の前、乙辻、太中、小坪井、坪井、味舌、浜、別府、江口へとつながるかつての「乙辻街道」の一部だと思っています。「乙辻」の地名をとどめているのは千

『五十石道』

正雀本町1丁目

フ. 24

里丘東一丁目、三宅農協の近くにあるバス停名「乙辻」と乙辻自治会ぐらいいでしょうか。亀岡街道と乙辻街道の分岐には、途中で折れてしまった道標があります。

右 吹田 大坂
左 満し田・江口

小字名は「茶屋の前」と言つたそうで、旅人達が茶屋で憩い賑わっている様子が目に見えるようです。江口

には「渡し」があり、淀川を渡ると「守口」や「京街道」ともつながります。江口の若堂近くに（南江口三丁目）

左 大坂道
右 京道 わたし

の道標がありました。今は見当りません。

乙辻街道は守口へ行く道でもあるので「守口街道」とも言われていたと何かの本で読んだ気がします。

道は私にとってパズルのようなものです。歴史的に有名な道は言うに及ばず、たとえ名もない野道でも興味をもって歩き続けたいと思います。

郷土史コーナー

鳥飼の歴史

猿楽と鳥養

能は、明治初期まで猿楽または猿楽能と呼ばれていました。その猿楽は、遠く奈良時代に唐から伝来した散楽にまでさかのぼります。奇術・幻術や曲芸・軽業などを含んだ散楽も、平安時代になると、滑稽な物まねが主流となり、「サルガク」とか「サルゴウ」などと呼ばれるようになりました。

猿楽は各種の芸を網羅し広範な演目を持ち、滑稽な所作と気の利いたセリフをもつ笑いとけるような寸劇でした。下級官吏の海老すくいの芸、上京した田舎びとのとまどいの滑稽さ、男待ち顔の巫女、尼僧が乳児をかかえておしめを買って歩く態など単純な物まねから風刺的な内容まで含んでいました。

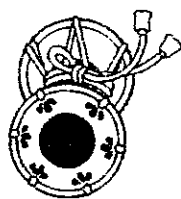
一方、寺院の法会などに関連して生まれたものに呪師猿楽がありました。また、神が老翁の姿で現れ人々に祝福を与えるという芸能から翁猿楽が形成されました。猿楽は宿神信仰と結びついて、この翁猿楽を表芸とし、大寺院の庇護のもとに同業者集団的な組織「座」を結ぶようになりました。猿楽は、その時どき人気のあった今様や白拍子といった歌謡など先行または並行する諸芸能の影響を受けながら、歌謡や舞を加えた劇形態の芸をも演ずるようになり、能や狂言の前身を思わせる色々な要素を持ち込みました。さらに、南北朝時代になると、早歌・平家語り・曲舞、そして田楽など他芸能を積極的に摂取しながら、舞・セリフ・物まねの諸要素を融合させ、一つのまとまった歌舞劇が形成されました。表芸の翁

猿楽をしのぐ人気を集めた歌舞劇は、「猿楽の能」として発展し、伝統的で滑稽な笑いのあるセリフ劇は「猿楽の狂言」として発達、大和猿楽の観阿弥が活躍したころは、すでに能と狂言の併演形態は確立していたようです。

大和猿楽・丹波猿楽・摂津猿楽等の諸座が芸を競い、京の都をめざしていました。何よりも文化の中心、京で名を上げなければなりません。それが、天下の名望を得ることでした。

中世室町時代に摂津猿楽の一つである「鳥養猿楽」の座があったと言われています。鳥飼の旧小字に「猿子田」の名がありこの付近にあったでなからうかと思われまます。応永十九年（一四一二年）末に同座の鳥養愛幸大夫が東寺に申し出たときの文章に「当座此の間、皆々水難の所、近日諸方に相語らい、一座を立て了ぬ」「東寺供僧評定引付」とあって、鳥飼は水との戦いの歴史がうかがわれます。史料上の初見は、応永二年の醍

醐清滝宮における演能で、以後、室町時代前半を通じて京の社寺で独自の活躍を示しています。ことに嘉吉元年（一四四一年）東寺八幡宮の楽頭に補せられ、同社へほとんど連年のように出演し、享徳二年（一四五三年）にまで及びます。その後は東寺の財政悪化と応仁・文明の大乱に際会して、同社の演能が中絶してしまいました。江戸時代初期にまとめられた「四座役者目録」には、大和金春座の小鼓方を回顧する条に、鳥養弥九郎の名が挙げられています。鳥養座のなから小鼓の技量をかわれて金春座に抜擢されたものらしいです。鳥養座・他の摂津の座も大和猿楽、なかでも金春座に併合されていたように考えられます。



「大阪府史」・「週間朝日百科日本の歴史」より

担当（若荷）

考古雑話

第 2 4 回

摂津市と水田の考古学

摂津市と水田の立地 (5)

摂津市と水田の立地 (まとめ)

これまでに、農林水産省「施肥改善事業」による水田土壌の分類を紹介し、市域での検出状況などを説明しました。現在市域では、地域によって、地下水位土壌、表面水型土壌が展開している状況が確認されています。これらの堆積の差は、本市の立地状況が大きく左右しているものと思われます。本市は、現在確認できる範囲では、山がない平坦な地形を呈しています。また市域の中央には、安威川・大正川・山田川、市域の南には淀川が流れています。これらの河川の流れは、時代により変遷し必ずしも現在と同一の流れではありません。また土地

の微妙な起伏は現在の地形からは確認できにくいものです。発掘調査によりあきらかになる過去の堆積からは、埋もれてしまった当時の古環境や土地利用を知る手がかりを得ることができます。ですが、水田土壌からは、遺物が一括で検出される事はまれで、散在に検出されるのが普通です。よって、時代の特定は困難な状況といえます。

しかし、近年の開発は著しく、現況からは、古代の景観復元が困難な昨今、これらの資料は貴重である事に関わりはありません。

本市でも比較的時代の特定が可能な地域（千里丘二丁目東、千里丘七丁目など、おもに市域の北西）では、新規の遺跡発見として、調査し周知に努めています。

年輪年代測定法による最近の成果

絶対年代および年輪年代基準資料	相対年代 (土器編年)	歴史事象
BC 116 桂見遺跡出土炭 (スギ)		BC 108 武帝東渡四郡設置
97 ニノ畦・横枕遺跡井戸枠 (スギ)	←IV様式後半	
78 蔵ヶ崎遺跡出土矢板 (スギ)	←III~IV様式	このころ倭分かれて、百余国
52 池上曾根遺跡出土柱根 (ヒノキ)	←IV様式後半	
AD 69 大友西遺跡出土井戸枠 (スギ)	←V様式後半~庄内期	AD 57 倭国国王光武帝に朝貢
77 鎌向石塚古墳出土板 (ヒノキ)		AD 107 倭国王師升生口献上 AD 239 女王卑弥呼薨に朝貢

※年代は『考古学と実年代』「埋蔵文化財研究会・1996」より引用。

【ね】年輪年代測定法

○考古学は過去を扱う学問である以上、何らかの形で時間軸を設定する必要がある。以前紹介した型式学的方法も有効な手段となります。○近年の研究では樹木の年輪から年代を測定する方法が普及してきています。

○出土した樹木の年輪変動を

あ

から思ひまる考古学

をパターン化し、現代からさかのぼり重ね合わせていく事で、樹木の伐採年代が明らかになります。○これらの年代は、型式学による年代が相対年代と言われるのに対し、絶対年代と言われるがあります。○この方法により柱、柵など様々な出土資料から年代を知る事ができます。